

特別支援教育委員会

1 研究テーマ

一人一人の生活を豊かにし、自立する力を育てる支援のあり方
～ 通常の学級に在籍する特別な教育的ニーズを持つ児童への支援 ～

2 研究課題

本研究委員会では、「自立」を「それぞれの障害の状態や発達段階に応じて、主体的に自己の力を可能な限り発揮し、より良く生きようとする」と定義づけ、過去4年間にわたり「自立する力」に焦点を当て、研究を進めてきた。現在の特別支援教育では、自律学級に籍を置く児童生徒はもちろんのこと、特別な教育的ニーズを持つすべての児童生徒が対象となっており、通常の学級に在籍する児童生徒に対する支援のあり方が最も重要な課題となっている。研究推進校の森上小学校でもこのような立場に立ち、通常の学級に在籍する児童に対する支援のあり方について研究を進めてきた。その中で特に重要視してきたのが以下の項目である。

校内の支援体制を確立することに重点を置き、教科によっては習熟度別に少人数のクラスを編成し、実態に応じたよりよい支援のあり方を探る。

教材、教具の工夫や「できる状況づくり」に焦点をあて、教材に具体物や半具体物を用意したり、視覚情報を有効に使ったりするなどして児童が自分でできるような環境を整える。

3 公開研究授業

期日 平成18年11月15日（水）

会場校、授業学級 森上小学校 4年 少人数学習（男子6名 女子4名 計10名）

教科および単元名 算数 『分数 ～はしたの大きさべつの表し方を考えよう～』

授業の様子

場 面	児童の様子、教師の支援	考 察
○ 半分に切ったゼリーを見て、それを分数で表す。	・ 半分のゼリーを見て「2分の1かどうか確かめるためには定規を使えばいい」と発言するA児。	・ 具体物を用いることで、2分の1という概念をとらえやすかったのではないかな。
○ ゼリーに見立てたテープを、学習プリントに貼って、それが全体の何分の1になるのか調べる。	・ A児は活動内容を十分理解できたようで、自分で判断して学習カードにテープを貼り、数字を記入することができた。 ・ B児は最初、自信なさそうに作業をしていたが、繰り返す内に手順を覚えたようで、1人で黙々と作業を進めることができた。 ・ 個々に学習を進める場面で作業が停滞してしまったC児だったが、教師が手順カードを渡すことで、それを見ながら作業を進めることができた。	・ 半具体物のテープを直接操作することで、分数を感覚的に理解できたのではないかな。 ・ 同じ手順を繰り返すことで、自信を持って活動を進めることができたのではないかな。 
○ 調べて分かったことを応用し、学習プリントの問題を解く。	・ 「分数に色ぬろう」という問いに対して余分に塗ってしまうB児。教師が呪文の言葉を言うように助言した後、修正することができた。	・ 問題がプリントに書いてある文章だけだったために、その内容を理解することが難しかったのではないかな。